



横浜市立相沢小学校

9月号 R3.9.1

# 学校だより



学校 HP QR コード

## オリンピック・パラリンピック



校長 野口 みか子

今年の夏こそは・・・。と思って7月になるまでは思っていた方々も多かったと思います。何よりも子どもたちが、楽しみにしていた夏休み、今年も制限の多い中でコロナ感染に十分気を付けながら日々を過ごすことになりました。

しかし、そんな中にありながらも57年ぶりに東京2020オリンピック・パラリンピックが日本で開催となりました。コロナ禍ですので、賛否両論様々な意見が交わされる中での開催となりました。しかし、選手たちの活躍は、コロナ禍であることを忘れさせてくれるほど力強いメッセージを私たちに届けてくれる機会となりました。重い病を乗り越えて、参加は難しいと評されていた水泳選手の参加、種目を一つに絞り練習を重ねて挑んだ鉄棒から落下してしまった体操選手、順位や出身国に関係なく選手のチャレンジをたたえ合うスケートボード選手たち。そしてこの地域出身の本田灯選手の快泳。どれをとっても心深く揺さぶられる力強いメッセージの発信です。一人ひとりの見えない努力が、メダルと言う見えるメッセージより、深く私たちの生き方に大きな影響を与えると言うことを、改めて感じさせられるオリンピックでした。

パラリンピック選手からは、さらに乗り越えた壁の大きさをイメージさせられます。人間の心のしなやかさ、強さ・弱さ、それを支える方々の志の高さを感じざるを得ません。選手の皆さんのほとんどが絶望感や無力感、周囲の人から受ける冷たい視線にさいなまれる、自分の存在意義への疑問などを抱え、抜け出せない長いトンネルに入り込んだ時期を経験しています。それでも自分を諦めなかったのはなぜなのでしょう。どうやって考え方や生き方を転換できたのでしょうか。そのことについて尋ねられた方々が共通して語っているのは、自分を支えてくれる方の「ことば」です。その「ことば」はそれぞれに異なりますが、支えてくれる人から言ってもらえた心に迫る一言で、深い悩みや暗く長いトンネルを抜け出せたと語っている方々が多くいます。

9月は分散登校での始まりとなり、いつ終わるか分からないコロナ感染状況に不安を抱える子どもたちや保護者の皆様も多いと思います。私たち相沢小学校の教職員は、子どもたち、保護者・地域の皆様と共に感染拡大防止に努め、子どもたちの心に寄り添い、支えとなるよう教育活動を行ってまいります。学校は、集団生活であるために、皆様にご協力をお願いすることも多いかと思いますが、子どもたちが安心して学校生活を続けていけるよう、力を合わせていきたいと思っています。どうぞ引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。